

# オンライン情報源と新型コロナウイルス健康情報回避の関係における情報過

## 多の媒介効果

—日本における事例—

○久田有里子 (HISADA, Yuriko)

**Keywords** : 健康情報探索行動、情報源、情報過多、情報回避、ヘルスコミュニケーション

### 1 目的

新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、オンラインの健康情報の必要性は増したが、情報が多すぎると情報過多を感じ、情報を避ける傾向が強くなる (Link, 2021)。先行研究をもとに、情報過多は情報源が情報回避に与える影響を媒介すると仮説を立てた。本研究の目的は、どのオンラインの情報源がより新型コロナウイルスの健康情報回避を引き起こしやすいかを定量的に分析し、情報過多の媒介効果を明らかにすることである。本研究は、人々に効果的に健康情報を提供するために適切なオンラインの情報源を明らかにすることを目指している。

### 2 方法

本研究は、2023年2月に実施したオンラインのアンケート調査により収集されたデータを使用した。調査では、日本の18歳から59歳までの935人からデータを収集した。仮説を検証するため、SPSSとSPSS AMOSを用い、共分散構造分析と媒介分析を行った。

### 3 結果

分析の結果から、新型コロナウイルスの健康情報を得るために、公的なウェブサイト、ソーシャルメディア、チャットアプリなど5つの主要なオンラインの情報源のうち、検索エンジンが最も頻繁に利用された情報源であったことがわかった。媒介分析の結果は、5つの情報源のうち、検索エンジンの使用のみが情報過多を介して健康情報の回避を強めたことを示している。他の情報源に関しては、媒介効果は認められなかったが、健康情報に特化したウェブサイトの利用は情報過多との関連はみられず、厚生労働省やWHOなどの公的なウェブサイトの利用は情報過多を強めたことがわかった。

### 4 結論

要約すると、分析結果は、検索エンジンは最も頻繁に利用されていた情報源であるが、検索エンジンをより頻繁に利用していた人はより頻繁に情報過多を感じ、これを媒介して、より頻繁に健康情報を避けていたことを示している。一方、健康情報に特化したウェブサイトの利用と情報過多の関連はみられなかったが、頻繁には利用されていなかったことがわかった。このため、健康情報に特化したウェブサイトの利用がさらに促進されるべきであろう。

#### 【主要参考文献】

Link, E. (2021). Information avoidance during health crises: Predictors of avoiding information about the COVID-19 pandemic among German news consumers. *Information Processing & Management; Inf Process Manag*, 58(6), 102714. 10.1016/j.ipm.2021.102714